

化石珪藻から見る珪藻の進化

須藤 斎（名大院環境）

生物進化を知るための研究の代表的なものとして、その遺伝子情報から系統樹を組んでいくという作業が挙げられる。しかし、実際の「もの」としての進化情報は化石からのみ得られる。水中に生息するプランクトン類の化石は、有孔虫・放散虫・渦鞭毛藻・石灰質ナノプランクトン・珪藻類などがある。これらは海中ではマリンスノーの形で海底に運搬され化石化する。それらの堆積物は、海域によっては数百～数千mもの厚さになり、過去から現在にかけてのプランクトン類の進化の歴史を保存する。本講演では海洋一次生産で重要な役割を担う珪藻類のうち、沿岸湧昇流帯で繁栄する *Chaetoceros* 属の休眠孢子化石の詳細な分類研究から明らかになってきた約 3300 万年前に起きた進化・繁栄と、それが他の海生大型生物に与えた影響について発表する。